

## はじめに

近年、自由化やグローバル化が、情報化の進展に裏打ちされながら、わが国のみならず地球的規模で進展<sup>1)</sup>し、いつでもどこでも誰にでも繋がることができ、それにより夢や希望をさらにふくらませるといった状況が一層備わりつつある。このようなユビキタスに象徴される情報社会は、資本主義や資本の論理<sup>2)</sup>が、くまなくグローバルに展開することでもあり、それは、社会や経済をさらに大きく変えた。これは、世界的な繁栄と、その一方では、閉塞状況をももたらした。成長や発展と同時に、明日や未来に希望や夢を託せない状況をももたらしたのである。実際苦い経験のなかで、ヨーロッパの統合という夢をEUという新しい枠組みに託したものの、ユーロ安等通貨危機により、その未来、またそれへの夢や希望も、大きく揺るがされよう<sup>3)</sup>としている。これらは同時に、地球規模で社会格差や地域格差をまさに惹起したのである。

このようにユビキタス社会、つまりいつでもどこでも誰でも、パソコン、携帯電話やスマートホン、メールで繋がる情報社会が、アジア<sup>4)</sup>でも、事実中国が世界一の携帯所持(2011年には9.9億ユーザーで73%の普及率)国<sup>5)</sup>になったように、本格的に到来しようとしている。もちろんそれは、マネー資本主義や消費資本主義<sup>6)</sup>が、インターネット社会により、まさに本格化していることを示すものでもある。そのことは、とりわけ雇用者にとっては、仕事と仕事場が、出先や出張先のみならず、家庭にまで拡大・進入し、24時間7日労働を可能とし、時には否応なくそれを強いられる。過重労働やストレスで、人間疎外はもちろん、本人、また家族や家庭も、過労死や崩壊をも引き起こすという、まさに働き過ぎ社会の展開<sup>7)</sup>へとつながるものに他ならない。

近年、わが国の社会経済や地域においては、高齢化や人口減少で新たな展開が見いだせず、閉塞状況を呈しているが、一方で、従来とは異なる形で新たな展開もみられる。特に停滞や減少化が指摘される小売り業や販売業等の消費部門に関しても、インターネットを介した消費が、若者のみならず、30～40代から50～60代等、中高年にも拡大する形で急成長している。事実楽天が展

開するまさに仮想商店街「楽天市場」に出展する企業の売り上げ総額（取扱高）は、2011年には1.1兆円にも上った。これは、三越伊勢丹ホールディングスの2012年3月期の売上高1兆953億円にはほぼ匹敵するのである。

このネット消費市場は、2016年度には2011年の6割増の16兆円になると評価<sup>8)</sup>され、また野村総合研究所とグーグルは、2010年におけるインターネット産業の市場規模が20兆円に上ると試算<sup>9)</sup>したゆえんである。もちろん海外、なかでも近年成長が著しい中国でも、インターネットでの消費とその伸びにはとりわけ大きなものがある。事実、2011年度の第三者インターネット決済市場規模は、2010年比で118.1%の大幅増加を示し、2兆2,038億円（約26兆8,195億円）に達する状況<sup>10)</sup>である。

そこでは、もはや多額の出費がかさむ店舗等ハード面でも、また対面接客をはじめとして教育をも要し管理やコストもかかる店員等、ソフト面、つまり従来の組織や仕組み、またその世話等も要しないのである。また旅行業界においても、宿泊等の予約がネット上でなされ、その予約とサービス取扱額が、一休等にみられるように、急増している。このように、インターネットを通じた消費が、関連する企業の利益を含め、大きく拡大している。これは、従来の消費行動、したがって、百貨店をはじめとする小売りサービス業を、また従来の予約システムとその上に立つ企業や業界、例えば、近畿日本ツーリストが展開してきた旅行サービス店舗等とその営業・管理システムをも再編成する形で、旅館業や旅行業等業界とそのサービス等をも大きく揺るがしたのである。

このようなグローバル化は、競争を激化させ、そのもとで大きな変容・再編成をもたらししたが、その影響は一様には進展せず、企業間、産業や分野間、さらに地域間にも、成長と衰退という2極化が展開した。したがって、閉塞状況とともに、今までにない経済や社会的格差、さらに地域間格差等、格差社会をもたらしした。その意味では、富や所得の、階層間、地域間格差が、個人、企業、産業や社会に新たな対処や対応を求めたのである。99%の声をとの政治的要請にみられるように、富はもちろん、人の声や意見さえ届かない状況が進展するなかで、そのような社会矛盾を強める事態に、人、企業、組織そのものが、新たな変容、さらには新たな対処や対応を迫られているのである。した

がって、新たな矛盾を緩和・解消し新たな局面を切り開くためにも、企業や資本の社会的責任が問われているように、それに対処・対応し得る新たな動きや政策が、社会的に、もちろん個人や地域にも、求められているのである。

特に2011年の東日本大震災とそれに伴う原発事故<sup>11)</sup>は、技術や科学、社会や経済さえ大きく揺るがし、企業や資本のみならず、人や生活、さらには夢を託してきたものやそのあり方さえ問い直した。事実信頼を寄せてきた成長や安全神話が崩壊し、これまでとはしてそれを支えてきた科学や技術さえ疑わしく、信頼や確固たるものを見いだせず、人や社会、また自然や災害にも、今までの安易な対応では対処し得ない。東日本大震災は、それを問い見直させるものであり、人、社会そのものをも、根源的に問い評価させるのである。したがって、東日本大震災の復興対策<sup>12)</sup>も、従来のような、また後ろ向きではない、次の時代へ繋がり活かすための新たな視点や対応が求められる。

もちろん従来や既存のものを、またその状況を自らが改変する以外なすべがない。とはいえそれらを即座に解消し実現できる英雄とも言うべき強いリーダーにそれを託すべく、従来通り座りしままに待ち望む状況が、寓民とも称されつつもなお散見される。したがって、わが国、とりわけ地方の経済と社会は、科学や技術、また組織やシステムに先進性や輝きを欠き、閉塞状況に陥ろうとしている。

このように大きな社会的変容や再編成への対処や対応が求められているにもかかわらず、人の日々の暮らしには、そもそも組織や社会の問題が差し迫る形を取り難く、それが認識されにくい。それゆえに、課題やその解を考える意識、また仕組みや体制も、したがって問題の解を見だし、解決する方策をつくり展開するには至り難い。主権在民とはいうものの、それは公式な場での見解のごとく、住民が中心で主体的になるよりは、多くの場合受動的で、人や他人任せの、他人事や他力本願に陥りがちである。

このような状況にもかかわらず、実際、企業、資本、行政は、必要性や要請、またそれに利害や権力を絡めながら、水源の開発、治水、防災等をはじめとして、新たな要求や要請を絶えず出してくるのである。もちろん企業や資本は、本来存在する限り、したがってそれを維持・存続するためにも、費用や時

間の範囲内と必要性のもとで、専門家の評価やお墨付きを携えながら、あらゆる要求や要請、またそのための解、手段や方策等を出し駆使しようとする。

このように、水資源開発や復興に関しても、無数の要求や要請が、また解や方策があり得るわけでもあり、時代や要請を考慮しつつ、それらに適切に対処・対応せざるを得ない。そういう意味でも、次の時代への展開や展望が求められている。時代に対応し得る担い手や人材、組織や体制への再編成や変革が、またそのための仕掛けや戦略が今まさに求められている。

このように、グローバル化が進展するなか、世界はもちろん日本、とりわけ地方やその社会や経済は、近年閉塞状況に陥り、希望に夢を託しそれを展開し得ない状況に陥っている。そういう意味でも、社会的要請や学問的課題への新たな成果が期待される。期待されているものや社会的に要請されているものは、魅力あり評価され次の時代に繋がるものである。そのためにも、新たな担い手や人材、組織や地域づくりが求められている。担い手や組織を死せるものから活かせるものへと転換し、新たなものへと構築していくことが必要である。本書では、その道しるべとなる新たな動きや展開を捉え、考察・検証し、そこに新たな夢や未来を託し、期待するのである。

## 注

- 1) 拙著 (1991) : 『国際化と地域経済の変容』古今書院、pp.1 ~ 15.  
拙著 (2002) : 『開発か環境か—改訂版—』大明堂、p.1.  
拙著 (2003) : 『開発から環境そして再生へ』大明堂、p.1.
- 2) 堀紘一 (2009) : 産業資本主義の復活.Voice第373号、pp.166 ~ 177.
- 3) 池上彰 (2011) : 「ギリシャ悲劇」から始まった.池上彰『そうだったのか! 21世紀NEWS』集英社、pp.158 ~ 173.
- 4) 中小企業庁 (2011) : 『中小企業白書 2011年版』同友館、pp.259 ~ 261.
- 5) [japan.internet.com/finanews/20100205/5.html](http://japan.internet.com/finanews/20100205/5.html).
- 6) 今宮謙二 (2003) : グローバリゼーション化の日米の経済関係.日本の科学者第38巻第3号、pp.4 ~ 8.  
拙著 (2004) : 『地域再生へのアプローチ』古今書院、pp.3 ~ 5.  
拙著 (2009) : 『産業・地域づくりと地域政策』大学教育出版、pp.1 ~ 4.

- 7) 天竺崇 (2010) : 過労死・過労自殺と労働条件の悪化.日本の科学者第45巻第6号、pp.4～9.  
金田基 (2010) : 過労死・過労自殺と労災・公務災害.日本の科学者第45巻第6号、pp.10～15.
- 8) 森岡孝二 (2005) : 『働き過ぎの時代』岩波書店、pp.1～216.
- 9) 日本経済新聞.2012.1.24.
- 10) [sankei.jp.msn.com/economy/news/111019/its11101919590001-n1.htm](http://sankei.jp.msn.com/economy/news/111019/its11101919590001-n1.htm).
- 11) 厚生労働省編 (2011) : 『厚生労働白書 2011 年版』日経印刷、pp.144～149.  
[news.livedoor.com/article/detail/6181167/](http://news.livedoor.com/article/detail/6181167/).
- 12) 岡田知弘・石川康宏他 (2011) : 3.11 で露呈した日本資本主義の矛盾.経済No.194、pp.10～38.  
梁瀬誠一編 (2011) : ノーモア! フクシマ福島原発事故の記録.週刊エコノミスト 4180号、pp.4～103.  
クッド研究所・学芸出版社 (2011) : 東日本大震災復興まちづくりシナリオの提案.季刊まちづくり 32号、pp.4～129.  
宮入興一 (2011) : 東日本大震災と復興のかたち.世界第 820号、pp.43～54.



格差社会と地域づくり 第2版

---

目次

はじめに .....	i
------------	---

## 第1編 社会経済システムの再編成と新たな格差社会の展開

第Ⅰ章 グローバル化と世界経済システムの再編成 .....	2
第Ⅱ章 社会経済の変容と格差社会の展開 .....	14
1. 日本の政治経済システムの変容と再編成	14
2. 新たな格差社会の展開	20
第Ⅲ章 地域産業と地域経済の変容・再編成 .....	30
1. 地域産業の変容・再編成	30
2. 地域経済・地域雇用システムの変容・再編成	37
第Ⅳ章 格差社会と社会システムの再編成 .....	44
1. 経済システムの再編成	44
2. 社会システムの変容・再編成	47
3. 雇用をめぐる社会状況の変容・再編成	52
第Ⅴ章 東日本大震災と産業・地域の再編成 .....	60
第Ⅵ章 地域間格差問題 —— 権利の不平等・選挙民一票の地域間格差 —— .....	76
第Ⅶ章 新しい時代の地域政策と大学 .....	80
1. 新しい時代の地域政策	80
2. 組織、人材としての大学	96



**第VIII章 地方財政と地域・まちづくり**…………… 102

1. 地方財政の状況 102
2. 新しい地域・まちづくり 104

**第2編 開発か環境かをめぐる課題と地域再生策としての環境政策**

**第I章 環境と開発をめぐる問題**…………… 120

1. 環境をめぐる問題 120
2. ペットブームをめぐる環境問題 125
3. 開発か環境か——公共事業・ダムをめぐる—— 129

**第II章 環境を活かした産業・地域づくり**…………… 136

1. 環境産業づくり 136
2. 環境を活かした地域づくり  
——エコタウン事業をめぐる—— 138

**第3編 地域の産業と環境を活かした地域活性化・地域づくり**

**第I章 地域産業づくりと地域活性化**…………… 160

1. 新たな地域産業づくりへの動き 160
2. 地域産業の活性化  
——淡路島の地場産業線香生産の展開と特徴—— 162
3. 地域・交通の結節点と産直市を活かした活性化 164

## 第Ⅱ章 地域や環境条件を活かした産業・地域の活性化 … 169

1. バイオマスによる産業・地域の活性化  
—— 淡路島菜の花プロジェクトをめぐって —— 169
2. 地域環境を活かした地域活性化  
—— 風力発電の展開と課題 —— 175
3. 地域・環境を活かした新たな活性化に向けて 181

おわりに …………… 190